

行動できるグローバルリーダー育成 への挑戦

Water is Life 2018の開催を通じて

渋谷教育学園渋谷中学高等学校
副校長 高際 伊都子

1、学校紹介

■ 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

私立 併設型中高一貫校 男女共学

在籍生徒 約 1 2 0 0 名 教職員 1 2 0 名（専任教員 約 8 0 名）

■ 姉妹校 同一法人内

渋谷教育学園幕張中学高等学校

幼稚園 2 園

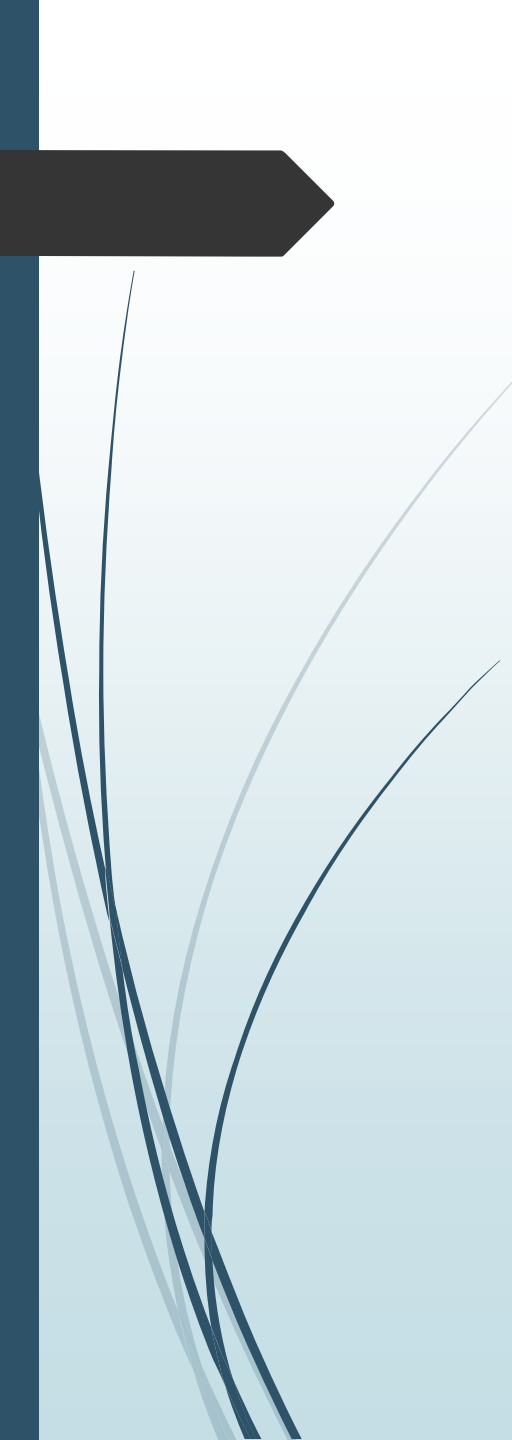
こども園 1 園

British School in Tokyo (SHIBUYA)

早稲田大学系属早稲田渋谷シンガポール校

■ 海外連携校

（オーストラリア 中国 シンガポール ベトナム アメリカ）



学校目標

- 自調自考

- 国際人の資質を養う

- 高い倫理感

- ➡ いろいろな研修活動をこの目標を意識して実施している

本校における海外研修の取り組み

- ➡ 中学3年 オーストラリア研修（約2週間 ホームステイ）
- ➡ 高校1年 ベトナム研修 シンガポール研修（約1週間 学校交流）
- ➡ 高校1・2年 アメリカ研修 イギリス研修（約2週間）
- ➡ 高校2年 修学旅行（中国）

- ➡ 高校留学
1年間 （単位認定）10名前後 受け入れ 2～3名

- ➡ 海外進学者 10名前後
その他、模擬国連・国際会議参加・大会参加



2、SGHの取り組みについて

■平成26年度 指定校

探究型学習を、いかにして
「行動できるリーダーの育成」につなげるか

テーマ： 人間の安全保障

教科横断型授業開発

高校 1 年生

高校 2 年生

高校 3 年生

JICA・ACCU・海外校・東京外国語大学などとの連携

スキーマ
国際会議等で説
得力のある発信
ができるように
なるための体系的知識

The
World
in 2050

社会科・
英語科・
数学科に
よる
教科横断
型授業

Project
Hiroshima
社会科・国語
科・英語科な
どによる教科
横断型授業

Wars and
Conflicts
様々な教科
の見地から
地球社会が
抱える問題
について考
え発表する

Social Justice

貧困、難民、水、
エネルギー、宗教、
生物多様性等につ
いての問題を英語
科を中心とする教
科横断授業で学習
する

Actions

社会貢献活動を計画・実行し、そこか
ら得た解決策を発信する

Write for the future 地球社会への貢献やグ
ローバリシュー解決へ向けて各人がレポートを作成

米国の連携
校との共同
授業

発信力
国際会議等の場
で他者を共感さ
せるコミュニ
ケーション力

広島研修

自調自考論文

Raffles
Institution
との交流

その他外部
国際会議

海外研修

外部コンテスト・ボランティアの参加

行動力
自分の興味の対
象について、課
題を見つけ自主
的に取り組む力

問題発見解決能力育成

After Graduation

次世代の
グローバルリーダー

年間スケジュール

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
The World in 2050	←→											
Project HIROSHIMA	←											→
Wars and Conflict										←→		
Social Justice	←											→
修学旅行プロジェクト						←→						
Write for the Future	←			→								
高校生ミニ会議				←→						←→		
大学による評価会				↔						↔		
運営指導委員会			↔							↔		
報告書作成										↔		
ホームページ作成				←→								

SGHで育みたい力

～ 自調自考 ～
～国際人の資質を養うために～



3、Water is Life 2018

- 5年目を迎えるSGHの集大成として、生徒たちが活躍できる場を！
 - 協力する中で、個々がリーダーシップを発揮する
(人まかせにせず、主体的に行動する)
 - 世界の高校生と交流する
- 日本と海外ではなく、多くの国々の中の一つ
 - 多様な参加国
 - 日本の参加人数のバランス
- 事前準備への取り組み
 - 教員もそれぞれの立場で関わる

Water is Life とは

- Water is Life は、2年ごとに行われる水に関する高校生が参加する国際会議
ホスト校が、水に関するプログラムを作成し、世界各国の高校に参加を
呼び掛ける形で進められてきました。

参加する高校生は、自国の水問題に結び付け、科学的・政治学的・経済学的、
または学術的視点から水に関する研究活動をチームで行い、論文を作成します。
論文は、会議前に提出され、実際の会議では、その研究成果を持ち寄り、互いに
発表し、他国の生徒たちと課題を共有します。

研究テーマは、科学技術・生物多様性・教育・地域・管理行政（政策）の5つの
中から、チームごとに選びます。

2014年に第1回が、Raffles Institution（シンガポール）の主催で開催、第2回
は、2016年にMaurick College（オランダ）で、今年2018年は、渋谷教育学園で
開催されました

プログラム

- 初日 開会式・基調講演Ⅰ・パネルディスカッション
東京オリエンテーリング
- 二日目 基調講演Ⅱ・代表チーム発表・施設見学（有明水再生センター）
- 三日目 基調講演Ⅲ・チームプレゼン・ポスターセッション
- 四日目 ワークショップ・分科会・理科実験・施設見学（谷津干潟）
日本文化体験
- 五日目 全体会・文化紹介・表彰式・閉会式

18か国

104名+32名

48名

**Europe:
10 schools**

**Asia:
5 schools**

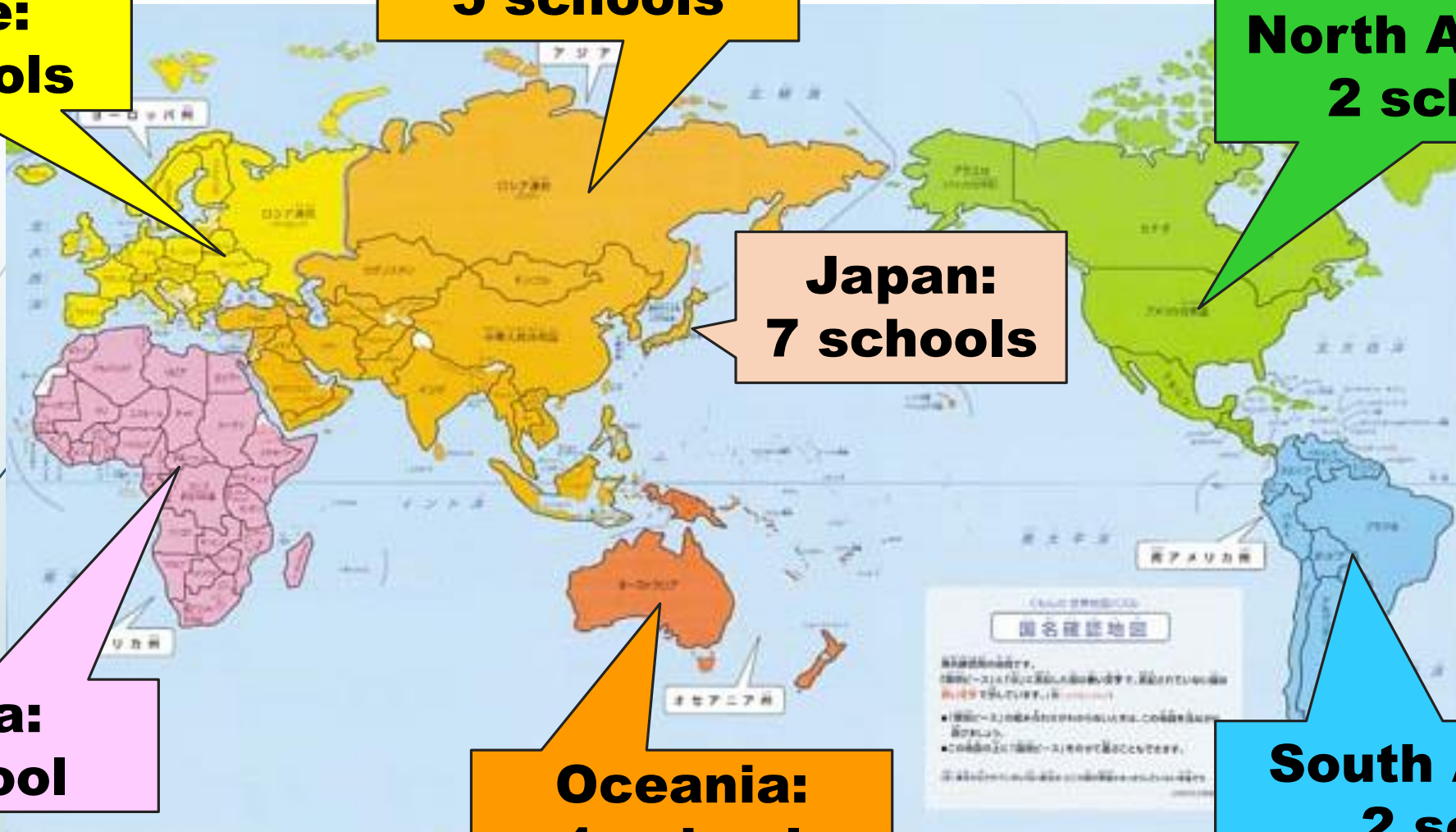
**North America:
2 schools**

**Japan:
7 schools**

**Africa:
1 school**

**Oceania:
1 school**

**South America:
2 schools**



① 事前準備

■ 対 海外参加校

2016年10月

2017年2月・・・キックオフ

4月

5月・・・参加仮登録

10月・・・本登録

2018年3月・・・論文締め切り

5月・・・宿泊先情報

7月・・・会議

対 学内

・・・開催表明

・・・キックオフ

・・・担当発表 大学・企業連携準備

・・・会議参加生徒確定

・・・養成講座 ファミリー募集

・・・CAST募集

Training the facilitators-to-be



Water is Life 渋渋が担当する参加国と水の名所



ナイアガラの滝
(アメリカ・カナダ)



モンサンミッシェル
(フランス)



アムステルダム運河
(オランダ)



人魚姫の像
(デンマーク)



マーライオン
(シンガポール)



グエル公園のトカゲの噴水
(スペイン)



キャノ・クリスタレス川
(コロンビア)



ビクトリアの滝
(ジンバブエ)



バリ島のビーチ
(インドネシア)



ポート・ジャクソン湾と
オペラハウス
(オーストラリア)

☆Water is Life ホストファミリー 引き続き募集中☆

Water is Life 2018 のキャスト募集を始めます！

1月24日(火)と25日(水)にこれらの国々の生徒が渋渋にやってきます。英語に自信がなくても、またあまり時間が取れなくても、あなたが活躍できる場があります。ぜひ説明会に話を聞きに来て下さい。

日時： 2月7日(水) 12:15～12:45

場所： 地下会議室

《これらはほんの一例です。》



実験助手



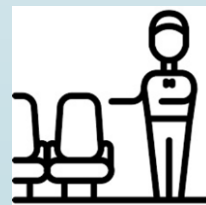
写真撮影



ツアーガイド



会場装飾



会場案内

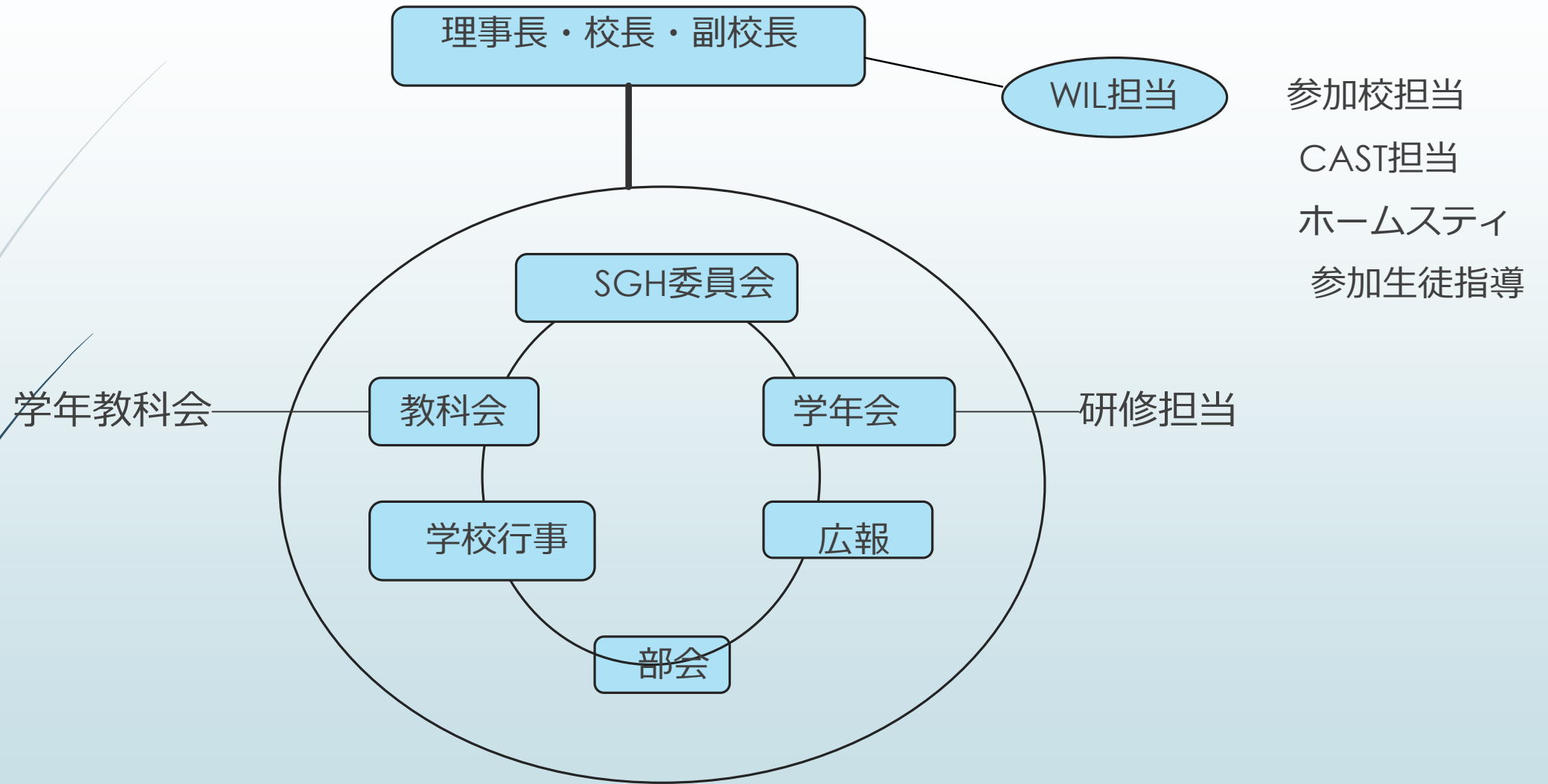


ファシリテーター



PC サポート

SGH体制



S G H実施による生徒の変化 (変化の大きかったもの)

社会貢献活動に取り組む生徒数			(2 6 年度と 2 9 年度の比較)		
	7 4 人	⇒	3 2 5 人		
仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合					
	41%	⇒	74%		
公的機関から表彰された生徒数					
	3 0 人	⇒	7 9 人		
公益性の高い国内外の大会における参加者数					
	80人	⇒	1 3 4 人		

② WILを実施して

■ 教員

もう一回チャンスがあれば、手伝ってもよいと思う・・・70%

P・・・生徒たちの多様な面の発見 教員としての経験

N・・・行事予定への影響 参加しない生徒への対応

■ 生徒（参加）

P・・・おもしろかった 視野が広がった 世界の高校生と友達になった

N・・・もっと頑張れた 時間がない（忙しい）

生徒の反応

■ C A S Tの感想から

- ・世界の高校生の議論する姿を見て驚き、刺激を受けた（中学 女子）
- ・水に関する知識が深まった。もっと英語を頑張りたい（高校 女子）
- ・多くの参加者に驚いた。こんな会議を主催できて誇らしかった（中学 男子）
- ・英語力のなさを実感した。今後こういった会議に参加したい（中学 男子）
- ・帰国生でない先輩が、英語を使って話していた姿に驚いた。もっと経験を積んで先輩のように、英語でコミュニケーションできるようになりたい（中学 女子）
- ・話し合いを進める力がついた。日常生活においても意識できるようになった（高校 女子）
- ・東京について詳しくなったので、自分の視野が広がったように感じる（中学 男子）
- ・世界には自分と同じ年でも、もっと真剣に物事をとらえ、さまざまなことに挑戦し、自分の意見をきちんと持っている人がいることに刺激を受けた。（高校 女子）
- ・大変なことがやりがいがあって楽しいということを学んだ。達成感や喜んでくれる人の姿が励みになった。またやりたい。（高校 女子）
- ・学校の活気が増したと思う（中学 女子）

振り返って

- 学校目標のもと、課題を共有してSGHをかたちづかった
- WILを総まとめとすることで、メリハリがついた
(日頃の学習活動のみだと、SGHが伝わりにくい)
- 生徒にとって、学校という場の良さを再認識した(愛校心)
- 教員も楽しめた(ビジョンの共有)
- グローバルな視点での気づきがあった



経験を日々の学校教育の活動へ活かしたい

高校生水会議の様子

開会式の様子



全体プレゼン



ポスターセッション



講演質疑



お楽しみランチ



有明フィールドワーク





Water is Life



閉会式 2020に会いましょう

ご清聴ありがとうございました。